

## ゼミ学生激論

# 東京海洋大A優勝



優勝カップを手に笑顔を見せる海  
洋大Aチームと樋口会長（左端）

NS物流研究会（樋口恵一  
会長）は5日、物流関連ゼミ  
学生の研究発表会（物流ニッ  
ポン新聞社後援）を開催し  
た。参加したのは流通経済、  
神奈川、東京海洋の3大学か  
ら合計5チーム。東京海洋大  
Aチームが優勝し、賞金と物  
流ニッポン新聞社からトロフ  
イーが贈られた。

東京海洋大Aチームのテー  
マは「中国における宅配便の  
将来性に関する研究」。発表  
によると、中国では近年、イ  
ンターネット通販の成長によ  
り、荷物の取り扱い個数は30  
%以上増加。宅配市場拡大の  
潜在需要は高いものの、配送  
の遅延や荷物の紛失などでク  
レームが多発している。

これは、物流施設整備の遅  
れが要因。現有能力では繁忙  
期の需要に対応できず、配達  
が滞っている。その上、荷物  
追跡システムの不備により、  
紛失が発生。ドライバークの研  
修期間は短く、接客態度が未  
熟であることにも言及した。  
発表者の謝英博さんは、上  
海市に進出したヤマト運輸  
（山内雅喜社長、東京都中央  
区）、佐川急便（平間正一社

## NS物流研/研究発表

長、京都市南区）の成功例を  
挙げ、「中国の宅配企業は、  
収益性の高い地域に資本投資  
を集中すべき。さらに、勢力  
のある会社と提携し、幹線輸  
送を強化する必要がある」と  
指摘した。

一方、準優勝の神大Bチー  
ムは「物流企業におけるリス  
クマネジメント」を研究。東  
日本大震災以降、運送事業者  
には価格や品質に加え安全対  
策も求められているとして、  
BCP（事業継続計画）の重  
要性を訴えた。

このほか、敢闘賞に神大  
A、努力賞には流通経済大と  
海洋大Bの各チームを選出。  
研究成果を称えた。

樋口会長は「物流は、あら  
ゆる業種と関連する事業。学  
生のみなさんが実社会に出た  
際は、これまでに学んだ知識  
が必ず実績・実力となるはず  
だ。今後もこうした発表会を  
継続し、日本の物流産業が向  
上することを願っている」と  
開催の意義を訴えた。

この後、懇親会に移り、学  
生同士が活発な意見交換を展  
開。運送業界関係者も同席  
し、研究内容について助言す  
るなど、産学の垣根を越え交  
流を深めた。

（山上 隼人）